

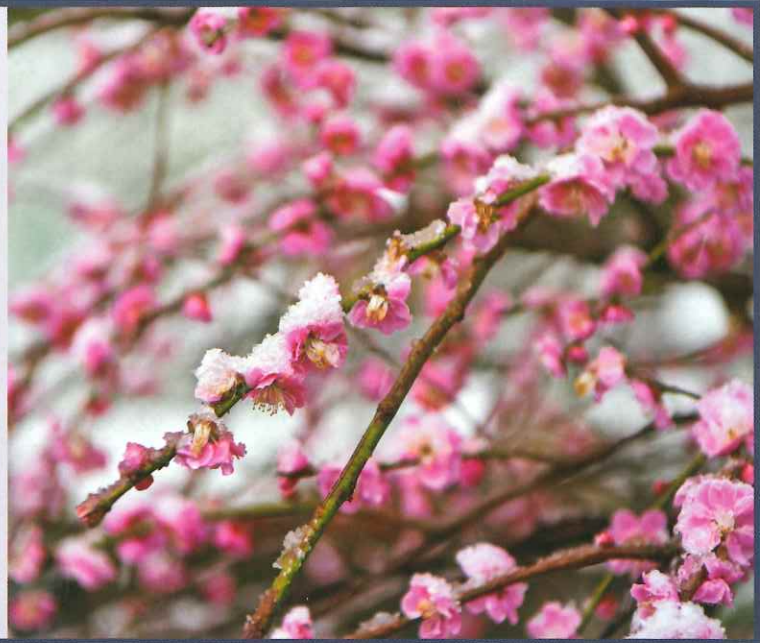
# ふれあい

2025

2

No.455

牛久愛和総合病院 広報誌



## 救急医療の診かた・考えかた

救急医療科 集中治療部長 矢口 慎也



今回は救急医療の診かた・考えかたについてお話しさせていただきます。

皆さんが病院を受診される際、まずはその症状から内科系か外科系かを選択して各診療科を受診されると思います。一般的な診療の流れとして、各専門医の先生方が問診・身体診察を行い、様々な鑑別診断を挙げて必要な血液検査や画像検査を行います。それらの結果から絞り込みを行い、診断・治療に結び付けます。

一方、内科系でも外科系でも救急車で来院される患者様は具合が悪いことが多く、特に重症の場合にはご自身で症状を伝えることが難しいため、バイタルサイン（呼吸回数・血圧・脈拍・体温）という生命を維持するために必要な項目に注目してその重症度と緊急度を見極める必要があります。

人の体は空気中の酸素をエネルギー源にしており、口から酸素を吸って気管・気管支を通り（A：気道）、肺に達すると肺胞でガス交換により酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出し（B：呼吸）、血液中に溶け込んだ酸素は心臓のポンプ機能により全身に運ばれ（C：循環）、脳に達することで脳から心臓や呼吸をしながら命令が出され（D：中枢神経）、また血液により体温も保たれ（E：体温）、そのサイクルによって生命活動を維持しています。

そこで酸素の流れに沿って、ABCDEの順番に診ていくことを1次評価（ABCDEアプローチ、生理的評価）と呼びます。ABCDEの順にその優先度が高く、Aの異常には気管挿管などの気道確保を、Bの異常には酸素投与や人工呼吸を、Cの異常には点滴や循環作動薬を、Dの異常にはABCの安定化を、Eの異常には熱中症では冷却を低体温症では加温などの処置を行います。バイタルサインが安定した状態で頭からつま先、お腹から背中順に診ていくことを2次評価（解剖学的評価）と呼び、原因検索を行い根本的治療につなげて行きます。

最近では早期に医療を開始するために病院前活動としてドクターカーやドクターヘリが活用されており、また災害時のDMAT（災害派遣医療チーム）も体制の違いはありますが患者様に対する基本的なアプローチ方法は全く同じです。そして何とか救命した後、ICU（高度治療室）／ICU（集中治療室）でさらに全身状態の安定化を図るのに集中治療科の役割になります。

救急医療科では各診療科の先生方をはじめ、看護師など連携を通じて、病院前のドクターカーから救急・外傷センターでの初期診療、ICUでの集中治療、さらに状態安定後の施設入所などの退院調整まで一貫して対応しております。

いざという時に皆さんのお役に立てるよう、今後も精進して参ります。何卒よろしくお願致します。

# 救急搬送（救急車）における選定療養費について



医療機関はその機能・規模により地域で担う役割が異なりますが、「とりあえず大病院を受診」という傾向になりやすく、一部の大病院に外来患者さんが集中し、患者さんの待ち時間や勤務医の外来負担等の増加が課題になっています。このため、2016年度から、紹介状を持たずに大病院を受診する場合には、一定の負担（選定療養費）を患者さんに求めることが義務化されました。

一方で、救急車で搬送された患者さんは基本的に緊急性が高いものと見なされ、今までは多くの病院で実際の緊急性の有無に関わらず、選定療養費徴収の対象外としていました。

茨城県における救急医療機関の現状は選定療養費の運用による医療機関の役割分担が十分に機能しておらず、救急搬送者の6割以上が一般病床数200以上の大病院（25病院）に集中しており、そのうち軽症が約半数を占め、その中には緊急性の低い方も含まれます。

2024年4月には医師の働き方改革が開始され、診療体制の縮小等が行われている医療機関もあり、救急医療現場の更なるひっ迫が懸念され、これまで以上に医療機関の機能や役割に

じた、適切な受診のあり方が求められる状況です。

このことから茨城県では重篤な患者さんの受入など大病院が本来の役割を果たし、救急医療体制を維持するためには、「とりあえず救急車で大きな病院の救急外来を受診」ではなく、「まずはかかりつけ医や地域の診療所等の一般外来を通常の診療時間に受診」し、「必要な場合にはかかりつけ医など大きな病院へ紹介」という医療機関の機能分担・相互連携を更に推進する必要があります。2024年12月2日からこれまでは徴収対象としていなかった救急搬送患者さんのうち、緊急性が認められない場合は選定療養費の徴収対象とすることが決定され当院でも選定療養費の徴収を開始しています。

このままの状況が続くと、真に救急医療を必要とする緊急性の高い患者さんに医療を提供できず、救える命が救えなくなる事態が懸念されることから、医療機関を緊急的に受診する必要のない症状では、まずは、診療時間内にかかりつけ医や地域の診療所などの一般外来を受診していただくようにご協力をお願いします。

茨城県では救急車を呼ぶべきか、医

## 急な病気やケガで救急車を呼ぶか迷ったら...



**茨城県 救急電話相談** 24時間365日  
相談無料 通話料は利用者負担 茨城県

おとな救急電話相談(15歳以上) 子ども救急電話相談(15歳未満)

**#7119** **#8000**

上記でつながらない場合 **050-5445-2856**

茨城県ホームページ「救急搬送における選定療養費の徴収について」  
[https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryoy/iryoy/isei/sentei\\_ryoyohi.html](https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryoy/iryoy/isei/sentei_ryoyohi.html)

当院ホームページ  
救急搬送における選定療養費の徴収について | 牛久愛和総合病院

療機関を受診すべきか迷った時のために、電話相談ダイヤル（24時間365日対応）を準備していますのでご利用ください。  
※選定療養費徴収は診察した医師の判断となりますので、受診前に選定療養費徴収の対象となるかのお問い合わせはご遠慮ください。

## いばらき腎臓財団理事長賞受賞

当院の透析センター看護師の古市綾子さんが、公益財団法人いばらき腎臓財団令和6年度茨城人工透析談話会において「いばらき腎臓財団理事長賞」を受賞しました。誠にめでとうございます！

## 感謝の声

突然の入院となり、混乱と不安の中一縷の望みを与えてくれたのがA4病棟の看護師さんでした。自分の気持ち落ち込み、その後ろ向きな情報ばかり耳に入ってくる中、前向きになれる話をしてくださいました。未来への希望こそ、患者の望む最大の安心だと確信しました。今回はたくさんの方々にご協力いただいた中、この看護師さんには感謝しかありません。ありがとうございます。

11月の初旬に入院させていただき、眼科でしたが、先生含めスタッフの方々によくしていただきました。ありがとうございます。全てのスタッフの教育が素晴らしいです。またお世話になるかもしれないですが、その時はよろしくお願ひします。

### 春秋園だより

立春が過ぎ、暦の上では春となりましたがまだまだ寒い日が続いております。体調を崩しやすい季節ではございますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

通所リハビリテーションでは、今の時期、送迎の際、厚手の上着を着ている利用者様がたくさんいらっしゃいます。朝夕と外は冷え込んでいますが、施設内や送迎車内は暖房が効き、暖かいので外に出る一瞬がとても寒く感じてしまうこともあります。そんな中でも、笑顔で春秋園に来てくださる利用者様に毎日元気をもらっています。

さて、十二月の通所リハビリテーションのフロア内では、手作業レクリエーション



で利用者様と共に作成した折り紙や花紙などで飾り付けを行い、華やかさや温かみを感じられるようになりました。



また合唱やギター、オカリナ演奏などのボランティアに来ていただく日もあり、聴く機会が少ない演奏を体感する事ができ、利用者様も喜ばれていました。

レクリエーションではコロナ禍ではできなかったカラオケを、感染対策をしながら久しぶりに行うことができ、懐かしの名曲、思い出の曲など好きな歌を利用者様ひとりひとり楽しそうに熱唱されました。

新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染者も増えていきます。感染症対策を徹底して、利用者様と楽しい時間を過ごせるように職員一同、力を合わせて頑張りたいと思います。

(通所リハビリ職員一同)

### DMカフェ

糖尿病・代謝内科 部長 河邊 聡子



寒い日が続いていますね。この冬はインフルエンザ、コロナともに流行しています。うがい、手洗いをお願いします。今回は糖尿病性神経障害のお話です。糖尿病性神経障害は両足の先端から感覚障害が出現し上に広がり、ひどくなると両手にも症状が出てきます。正座したあとのような無感覚、しびれ、痛みが特徴です。温めると痛みやしびれは改善します。感覚が鈍い方はカイロ、こたつ、湯たんぼ、電気毛布などの暖房器具、お風呂での低温・高温熱傷（やけど）にも注意が必要です。私は大丈夫と油断せず、温度はまず手で確認しましょう。靴中の異物や靴ずれ、タコ、水虫からの感染で足壊疽となり切断となるケースもたびたび経験します。異物や足の状態を手で触つてよく見て、指の間や裏側も確認してください。切断の話をしなければいけないとき、私たちもとてもつらいのです。小さな傷のうちに相談していただけるとうれしいです。

### 入職者

1月16日付

■春秋園

■訪問看護

看護師 竹本 蒼一郎  
笑顔と挨拶を大切に、少しでも早く仕事を覚え患者さんに寄り添えるよう精一杯努めさせていただきます。

■ケアサービス部

看護師 住谷 歩美  
穏やかな性格を活かして、利用者さんに寄り添う気持ちを大切に看護を行っていきます。

1月22日付

■看護部

■看護助手

チエトリ ヨジータ  
こうれいしゃのいろいろなおせわをすること、かんじゃさんのしあわせにつなげたいです。

■看護助手

シャーマ カリシユマ  
インドでかんじゃさんのおせわをすることができ、日本でもおせわをしたいです。

### Dr趣味リレー

研修医 大久保 甲斐

これまでさまざまな趣味に手を出してきましたが、今でも続けているものの一つにスカッシュがあります。

スカッシュは約10年前に出会ったスポーツで、一言で表すと「室内で行う壁打ちテニス」のような競技です。四方が壁で囲まれたコートに対戦相手と入り、ゴルフボールほどの大きさのゴムボールをラケットで交互に打ち合います。この競技の特徴は、前方の壁にボールを当てる際、横や後ろの壁も活用できる点にあります。そのため、ボールはさまざまな角度や軌道で飛んできて、自分も相手を惑わせる多彩なショットを打つことが可能です。こうした三次元的な戦略を駆使してプレーするところが、スカッシュならではの醍醐味です。

また、スカッシュは2028年のロサンゼルスオリンピックで正式競技として採用されることが決まっています。スポーツジムなどに併設されたスカッシュコートで気軽に体験できるので、この機会に始めてみてはいかがでしょうか。

# 《出来事ピックアップ》

## 院内研究発表会

12/5・6

去る12月5〜6日院内研究発表会が行われました。働き方改革の影響で、勤務時間内の開催となり、勤務の都合を付けるのが難しかったと思いますが、大勢のスタッフが参加しました。

各部署工夫をこらした研究内容で、優秀付けがたい中、第一日はNST委員会の撰食嚥下スクリーニングの研究が優秀演題で選出されました。入院患者の高齢化が進む中、嚥下スクリーニングシート導入により、実際に誤嚥性肺炎の炎症が減少したという臨床



に直結した内容でした。2日は外来部門のドクターカー運用に関する研究が受賞。2022年5月より運用開始されたドクターカーに関する実績と課題についてよくまとまった研究でした。

この他にもアンケート調査にQRコードを用いた斬新な手法をとり入れた演題や、認知症高齢者の金銭管理の話など現代社会の問題点に向けた演題など、どの発表も年々質の高いものになっていると感じました。スタッフの研究努力を無駄にさせることなく今後の実臨床に生かせるように全職員で向き合っていけたらなと思っています。

(教育委員会兼図書委員会

委員長 瀬口雅人)

### 編集だより

筑波山の梅も咲き始めた今の時期、早咲きの梅の花を一輪一輪探しながら散策する「探梅」を楽しんでいます。寒さで縮こまった体を伸ばし小さな春を見つけに行きませんか？ (C・H)

### 病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様にも最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

### 病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

### 施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



### 診療科目

#### 【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

#### 【専門外来】

内科 (禁煙外来)  
整形外科 (股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)  
小児科 (小児循環器、小児心理、小児免疫)  
皮膚科 (レーザー外来)  
外科 (下肢静脈瘤外来)  
ストーマ外来  
そけいヘルニア専門外来  
透析外来  
内視鏡検査  
検診検査 (乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 常仁会

救急 24時間

## 牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地  
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031  
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

### 《関連施設》

- 総合健診センター Tel 029-873-4334
- 健康増進施設 スポーツリラククス Tel 029-874-8791
- 人工透析センター
- 読影センター
- 地域リハ・ステーション
- 介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
- ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
- 特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

